



第33回教育美術展奨励賞作品より

- ・ 釧路市ふたば幼稚園 (釧路市) : 左上
- ・ 喜茂別小学校5年生 (喜茂別町) : 右上
- ・ 東小学校2年生 (伊達市) : 左下
- ・ 花川南中学校1年生 (石狩市) : 右中
- ・ 南月寒小学校4年生 (札幌市) : 右下

作品100点がホームページでご覧になれます <http://hokuzou.kir.jp/> です!

<目次>

・ 第33回教育美術展奨励賞作品.....	1 (表紙)
・ 北海道造形教育連盟委員長挨拶.....	2
・ 研究の方向.....	3
・ 第57回全道造形教育研究大会釧路大会のご案内...	4~5
・ ネットワーク部会の活動.....	6~7
・ 第34回教育美術展に向けて.....	8



**北海道
造形教育
連盟報**

No.124 2007.7.10発行

発行 **北海道造形教育連盟**

委員長 今 裕子

事務局 札幌市立菊水小学校 益村 豊
〒003-0822

札幌市白石区菊水元町2条3丁目2-14
TEL872-3084 · FAX872-4589



造形教育でつながる ひと・ゆめ・こころ

造形教育連盟57年目－2007年度の歩き方

北海道造形教育連盟

委員長 今 裕子
(札幌市立澄川西小学校)

■ はじめに

ゆたかな造形表現を通して人間の生き方を求め、人間の心を育てて57年の歴史を誇る北海道造形教育連盟は4月28日、全道各地区からたくさんの会員の皆様、地区の代表の皆様の出席のもと地区委員総会を開催しました。私は、引き続き委員長の任に就くことになり、役員・本部事務局員とともによろしくお願いいたします。

■ 連盟の役割と組織の見直し

さて、子どもは学校という社会で、様々な学びを通して成長していくわけですが、その最も身近なモデルである私たち教師の存在と影響は大きいものです。とりわけ図工・美術を通して子どもの生き方にかかわる私たち連盟の役割の大きさ、影響力を改めて考え、組織の人の力とネットワークを活かした交流を図りたいと考えます。

そこで今年度は、全道教育美術展・広報誌発行を中心とした事業と全道的な視点にたった研究・研修とネットワーク等の業務を整理し、スリム化を図るとともに、全道の造形教育の推進を担う本部組織を見直すとともにその充実・改善に努めたいと考えております。

■ 北から発信する造形

平成15年度道研究部が実施した「北海道の子どもの現状を捉えるためのアンケート」と、昨年度の札幌大会で授業公開した先生とその子どもたちを対象に行ったアンケートを集約・考察を重ね「実践研究のまとめ」を作成しました。そのまとめは文部科学省をはじめ関係機関に送付し、図工美術が人間形成に重要な教科であることを次の三点にまとめ、その大切さを訴えました。

- ・造形教育は子どもの内面に深くかわり、人としての充実感、豊かさを育む教科であること。

- ・自分らしい色や形、材料などで表現していく行為は、自分自身をかけがいの無いものとして感じ、他を尊重する心につながる教科であること。
- ・我が国の美しい風土や伝統的な文化を土台として豊かな美意識を体験できる教科であること。

■ 全道ネットワークの充実

地区委員総会、全道大会の分科会、そして教育美術展審査時と各地区のネットワーク担当の先生方々が集まる「ネットワーク会議」を年三回設けています。

平成5年旭川大会で誕生した「全道ネットワーク会議」はここ数年で、文字通り「ひざをつき合わせた」交流が行われるようになりました。担当の先生をはじめ、各地の必要感が支えとなっていると思います。今後、各支部のネットワーク担当若しくは研究担当の先生が三回の設定のいずれか可能な会に出席をされることでさらに地域間のつながりが深まりネットワークの絆が強まるものと思います。

■ 釧路でともに学び、ともに高まろう

第57回造形教育全道大会は釧路地区で開催されます。図工・美術のあり方を、幼児から高校にわたる校種の授業公開と特別支援教育の交流などを通し、その意義を子どもたちの目線で語り合ひましょう。

釧路大会では地域に目を向け、地域らしさを活かした豊かな造形活動「くしろスタイル」への挑戦をともに学び合い、造形教育の果たす意義を改めて問いながら研究を深め合い、自分の地域や教室の子どもたちへのお土産にしたいと思います。

子どもの姿が見える造形教育、子どもの好奇心に満ちた眼差し、輝く子どもの姿と向き合い、造形活動の価値や可能性を見出し、表現することの素晴らしさを今年も共有しあひましょ。そして子どもにとって『図工・美術の時間が魅力的で大切に思える時間』となる造形教育をさらに発信しましょう。

北海道造形教育連盟役員（部長会構成メンバー）

○委員長	今 裕子 (札幌市立澄川西小学校)	○会計監査	高橋 潤 (釧路市立北陽高等学校)
○副委員長	塚野 昭臣 (北海道教育大学附属中学校副校長)	○会計監査	墓田 充泰 (千歳市富丘中学校長)
○副委員長	武田 誠 (函館市立北昭和小学校長)	○会 計	谷山 圭子 (札幌市立あいの里西小学校長)
○副委員長	宝輪 勝己 (釧路市立芦野小学校長)	○庶 務 部	筋内 浩之 (札幌市立真駒内曙小学校)
○副委員長	河合 薫 (富良野市立鳥沼小学校長)	○広 報 部	松本 和彦 (札幌市立発寒小学校)
○副委員長	桑田 正博 (江別市立角山中学校長)	○事業活動部	福島由紀子 (札幌市立澄川西小学校)
○事務局長	益村 豊 (札幌市立菊水小学校長)	○事業研修部	向井 正樹 (札幌市立あいの里東中学校)
○事務局次長	東 尚典 (札幌市立大谷地東小学校)	○研 究 部	川島 正夫 (札幌市立幌南小学校)
○事務局次長	中居 正光 (札幌市立菊水小学校)	○ネットワーク部	小林 知広 (札幌市立前田北小学校)



出会いや対話から豊かな人づくり

北海道造形教育連盟

本部研究部 研究部長 **川島 正夫**
(札幌市立幌南小学校)

1. 芸術系教科の授業時数削減計画再考

近年、小・中学校などでも芸術系の教科の授業時間が削減されてきており、小学校では年70時間あったのが1998年には50時間（高学年）に削減され、今日の学力低下論議の中でさらに授業時間が減らされるのではないかと危惧があります。

しかし、今日の学力低下論議の出発点になったOECD-PISAの国際学力調査で重視されているのは決して数字上の学力ではなく、表現能力を含めた広い意味でのリテラシー能力であり、日本の児童・生徒はむしろこれらの学力が低下していることが指摘されています。

(初等教育資料4月号：参考)

このように、学校教育の中で広く言葉を含めた表現活動を豊かにすることは大きな課題になっていると言えます。現代社会において、造形教育の果たすべき役割はさらに増していると強く指摘できると考えます。

2. 出会いと対話から自分をつくる

基礎的・基本的な知識・技能の育成（いわゆる習得型の教育）と自ら学び自ら考える力の育成（いわゆる探求型の教育）とは、対立的あるいは二者択一的にとらえるべきものではなく、この両方を総合的に育成する具体的な方策を示すことが必要です。このため、いわば活用型の教育とも言うべき学習を両者の間に位置づける方向で考えていくことが大切です。

これからの教育には、

＜探求的な導入から始まる＞

→ <これまでに習得してきた力を活用する＞

→ <新たな技能を習得する＞

→ <さらに探求が深まる＞

このような学習のサイクルが求められると考えます。このような学習の過程において、昨年研究主題として掲げました「出会い」と「対話」から「自分をつくる」という考え方はとても意味のあるものと考えます。

新しい「もの」や「こと」との心躍る出会いや豊かなやりとり（「対話」）から、自分のよさを実感したり、「もう一つの自分」や「もう一つの世界」を見つけ出すなど、「新しい自分をつくりだせた」という＜自己創造感＞が子どもの中に生まれる造形教育を求めていると考えています。私たちは教育内容を明確にし、「つける力」「引き出す力」「育む力」を明らかにしながら、豊かな自分自身をつくる人間の育成を目指していきたいと思えます。そのために、「習得」「活用」「探究」という視点から指導の改善を行っていききたいと考えます。

3. 豊かな人づくりと造形教育の価値や可能性を発信する釧路大会

第56回全道造形教育研究大会／札幌大会、終了後の大会集録に、次のようなことを述べさせていただきました。

大会を終えて一番に感じることは、幼稚園から高等学校までを網羅した本連盟の大会の価値の素晴らしさです。今後は、大学教育や特別支援教育などとも連携することにより、「人の発達と造形教育のあり方」～造形教育における人づくり～に、より深く踏み込んでいきたいと考えています。また、他教科や社会（地域）、人や文化などとのつながりを広げていくことで造形教育の価値や意義をより強く発信していきたいと考えています。

釧路大会の企画書を見て、この方向性を受けてくださっていることに力強さを感じました。また、今回の大会は、幼稚園から高校までの授業公開が企画されています。全校種にわたって授業公開を実現するまでの釧路造形教育研究会のご尽力に敬意を表します。

今回の釧路の考え方は、北造連研究部が提案いたしました**出会い**、造形的なやりとりや**対話**を通して自己実現や**自己創造感**につながるものと考えられます。「**できた**」や「**いいね**」が、子どもの数だけ生まれ、新しい意味や価値を見つけ出す、新しい自分に気付くという人づくりに向かうものと考えたいと思います。そして、造形教育でめざすべき調和のとれた人間形成につながるものであってほしいと強く願います。

そのためには、先ほども述べました「習得」「活用」「探究」という視点の中の「**活用**」の部分を中心に子どもの姿に学んでいきたいと思えます。そこには、一人一人のよさの発揮から「**できた!**」や、「**いいね!**」という感受や共感が生まれると思えます。子どもが自らのよさをいかに活用し、思いの実現に向かうかを学んでいきたいと思えます。

また、特別支援学級の実践紹介が、造形教育の「ひらかれた姿」の表れの一つとして提案されることを期待しております。

「くしろスタイル」という9年間にわたるカリキュラムの提案が、造形教育に携わる多くの方々に自信と方向性を与えてくれることを期待しています。



第57回全道 造形教育研究 大会釧路大会

会期：平成19年7月26日(木)

会場：釧路市立芦野小学校

釧路市芦野1丁目13番1号

TEL(0154)37-2151 : FAX(0154)37-2161

第57回全道造形教育研究大会釧路大会実行委員長 宝輪勝己



《釧路大会研究部長：中島健朗(釧路市立鳥取小学校)》

図工・美術では、他教科と比較して「教師が何をすべきか」が教師の裁量に任せられる部分が多く、指導内容が曖昧になる場合が多いのではないのでしょうか？

釧路地方の図工・美術を取り巻く現状は、中学校では、釧路市内だけでなく周辺地域において、図工・美術の専門教師が激減していたり、小学校教員からは「なにをどう教えて良いのかわからない。」や「自分が苦手だから教えられない。」等の切実な声を聞く機会が少なくないのです。

私たちは、図工・美術の学習時間の中で多くの子ども達が「できた！」「いいね！」という声を上げることができるよう、題材や活動を考え、求め、積み重ねていきたいと考えています。

そこで、図工・美術が必修である小学校～中学校9年間の基本的なカリキュラム「くしろスタイル」を作成しました。これは、小学校1年生から中学校3年生までの9年間でどんな素材や技法、道具などをどのような順番で提示し、学年を追うごとにどのように深めていくか、そして、教師は何を指導しなければならないのか明確にすることで、図工・美術の活動に一貫した系統性を持たせることができると考えました。

「図工・美術が専門です！得意です！」という方だけでなく、
「図工・美術が苦手です！困っています！！」という方々の参加を歓迎します！

■釧路大会研究テーマ
「できた！」「いいね！」の喜びが息づく時間を求めて

■釧路大会研究主題
つくる喜び・感動する心をつなげていく造形教育

【タイムスケジュール】（公開授業の開始時間が変更になる場合があります）

受付	公開授業 階段式授業公開	開会式 全体会	授業検討1	昼食	授業検討2	課題別分科会	レセプション
	9:00 幼年長「ダイナミックに〇〇！」(80分)	大会長挨拶 実行委員長挨拶 来賓挨拶 来賓紹介 主題設定の説明 (道本部) 研究テーマの説明 (本大会研究部長) ネットワーク 部紹介	幼稚園				★送迎バス 運行 釧路プリンスホテル
	9:00 幼年長「ドキドキ・ワクワク」(50分)		特別支援(VTR)(授業検討)		特別支援		
	9:00 小1年「ならべてならべて」(60分)		小学校：みる・かんじる		みる・かんじる(全)		
	9:10 小2年「みてみておはなし」(60分)		小学校：かく・つくる		かく・つくる(全)		
	9:20 小6年「自然から贈り物」(60分)		小学校：かんがえる・くふうする		かんがえる・くふうする(全)		
	9:00 小4年「コロコロコロガート」(80分)		中学校・高校：みる・かんじる		かんがえる・くふうする(全)		
	9:30 小6年「ものくろあーと」(60分)		中学校・高校：かく・つくる		ネットワーク部会		
	9:30 中2年「日本の仏像彫刻のよさ・西洋彫刻のよさ」(50分)		中学校・高校：かんがえる・くふうする				
	9:00 中2年「抽象彫刻」(50分)						
	9:40 高校選択「切り絵アート」(50分)						
	9:15 中1年「イメージの箱」(50分)						

- ・公開授業：開始時間に差をつけて授業を公開します。複数の授業の導入部分を見ることが出来ます。
- ・授業検討1,2：公開した授業についてテーマ別、学校別に、昼食を挟み2回に分けて研究討議します。
- ・課題別分科会：提言を交えて、小中高合同で課題別テーマに沿って研究を深めます。

■公開授業（11本）

学校・学年	題材名	授業の内容	授業者	分科会
幼稚園	年長 ダイナミックに〇〇！ (育てた野菜の葉を使って)	子：「先生！カリフラワーやブロッコリーの葉っぱはどうするの？」 先：「捨てられてしまいがちな野菜の葉を何かに利用できないかな？」 子：「葉っぱで何か作りたい！」 そんな子どもの小さな疑問から創造性溢れるハンシシ術が・・・	北村 香里 金行 宏江 (大楽毛よしの幼稚園)	授業検討のみ
	年長 ドキドキ・ワクワク	46名の年長さんがニコニコ笑顔いっぱい、ドキドキ・ワクワクしながら楽しく活動します	上村 晴奈 丸山 明佳利 (愛国フレンド幼稚園)	授業検討のみ
特別支援学級	遠矢小・富原小での実践事例をVTR紹介		篠木 麻希 (釧路町立富原小)	特別支援学級
小学校	1年 ならべてならべて (絵の具からの色水づくり)	絵の具で色水を作って並べていきます。子どもの素直な感性の中でステキな美的感動を生み出していきます。	岩口 玉季 (釧路市立鳥取小)	みる・かんじる
	2年 みてみておはなし ～ふしぎなたまご～	不思議なたまごのお話から思いをふくらませ、自分なりの「不思議なたまごの世界」を楽しく表現します。	佐藤 幸 (釧路市立芦野小)	かく・つくる
	4年 ココロココロガラート	工作用紙やダンボールをつかって、ビー玉が転がり落ちる楽しい迷路をつくります。	佐藤 円 (釧路市立芦野小)	かんがえる・くふうする
	6年 自然からの贈り物	流木などの自然素材を何かに見立てたり、イメージに合わせて素材を探したりしながら、作りたいものを作っていきます。	国井 彩子 (釧路市立美原小)	かく・つくる
	6年 ものくろあーと ～水墨画に挑戦～	濃い黒、すごく濃い黒、薄い黒、すごく薄い黒…同じ黒だけど全然違う黒。色味はないけど色々使って工夫してアートに挑戦します！	亀岡 朗子 (教育大附属釧路小)	かんがえる・くふうする
中学校	1年 イメージの箱	PPウレタンボードを使い、「一字」から発想したイメージを色彩と形で創造的に表現していきます。	免田まゆみ (釧路市立鳥取西中)	かんがえる・くふうする
	2年 日本の仏像彫刻のよさ ・西洋彫刻のよさ	日本と西洋の彫刻鑑賞を通して、それぞれの良さや文化の違いや精神性を感じ取る授業を展開します。	杉山 浩彰 (釧路市立美原中)	みる・かんじる
	2年 抽象彫刻	手作りの石膏の彫材を、子どもたちが自分なりのテーマを通して、抽象という形を彫り出していきます。	更科 結希 (釧路町立遠矢中学)	かく・つくる
高校	2年 切り絵アート	単純な形を組み合わせた模様を切り抜いていく切り絵です。時間の経過と共にそれぞれの生徒の感覚で変化しながら、模様が切り取られていきます。	竹本 万亀 (釧路星園高)	かく・つくる

■分科会（授業検討分科会8本、課題別分科会4本）

区分	授業検討分科会			課題別分科会	
	助言者	司会・記録	提言者	助言者	司会・記録
幼稚園	三枝 佑嘉 (美原つくし幼稚園長)	大嶋 春香 (釧路かすみ幼稚園) 石川洋子・佐藤由美子 (美原つくし幼稚園)		なし	
特別学級	竹本 千鶴 (釧路養護学校)	宮沢 清美 (釧路市立桜が丘小) 八木沼みちる (釧路養護)	授業検討分科会と同じ		
みる・かんじる	小 内山 博之 (弟子屈町立昭栄小教頭)	伊藤 恵理 (釧路市立新陽小) 伊東 義則 (釧路市立愛国小)	日野 道子 (浜中町立眞人小)	桑田 正博 (江別市立角山中校長)	長谷川成佳 (釧路市立景雲中)
	中高 澁木 弘志 (釧路武修館中講師)	長谷川成佳 (釧路市立景雲中) 大木よしこ (釧路市立青陵中)	花輪 大輔 (附属釧路中)	内山 博之 (弟子屈町立昭栄小教頭)	氏 絵美 (釧路市立大楽毛小)
かく・つくる	小 小野三枝子 (釧路市立山花小教頭)	里見 勝之 (釧路市立昭和小) 氏 絵美 (釧路市立大楽毛小)	木田 るみ子 (釧路町立富原中)	引地 俊夫 (旭川市立東中小校長)	田越 智保 (釧路市立鳥取中)
	中高 奥田 泰朗 (釧路市立共栄小教頭)	田越 智 (釧路市立鳥取中) 西村 琴美 (釧路市立春採中)	上野 秀実 (釧路東高)	小野 三枝子 (釧路市立山花小教頭)	伊東義則 (釧路市立愛国小)
かんがえる・くふうする	小 森川 浩 (釧路市立美原小教頭)	加藤 和江 (釧路町立富原小) 市野真貴子 (釧路市立芦野小)	岩崎 愛彦 (千歳市立千歳小)	森實 祐里 (札幌市立三角山小)	加藤 和江 (釧路町立富原小)
	中高 森 富輝 (釧路市立大楽毛中教頭)	阿部孝彦 (釧路町立富原小) 小泉 昭子 (釧路市立常盤中)	森川 沙織 (釧路市立大楽毛中)	森 富輝 (釧路市立大楽毛中教頭)	阿部 孝彦 (釧路町立富原小)

【釧路大会事務局】釧路北陽高等学校 高橋 潤 〒085-0814 北海道釧路市緑ヶ岡1-11-8)

TEL 0154-41-4401 FAX 0154-41-0344

【レセプション会場】釧路プリンスホテル(釧路市幸町7-1)

【参加申し込み・宿泊案内】トップツアー(株)釧路支店

参加料 5,000円、昼食弁当 1,000円、レセプション代 5,000円

ネットワークのつながりのために

北海道造形教育連盟

ネットワーク部長 **小林 知 広**
(札幌市立前田北小学校)

○「ひと」と「ひと」との結びつきから

全道各支部の代表のみなさんが参加するネットワーク部会。話し合いをするたびに、「何ととっても、人と人のつながりが、ネットワークの力ですね……」と、いうこと話がなされます。確かに、インターネットを使うと、たくさんの情報をパソコンから得られるのですが、本当に伝えたかったことや実践を通した率直な感想などは、伝わりにくいのです。

昨年の札幌大会・ネットワーク部会で、今後は全道各地で行われている実践や研究会の様子、各支部で話し合われた問題点などをもっと交流する機会をつくる必要があるのではないか、という声が高まりました。確かに、各支部で行われている活動の情報発信をする場が今まで少なかったように思います。インターネットから情報を得る手段が整っている昨今でありながら、情報発信の立場からすると、まだまだ不十分であったことが浮きぼりになりました。

○全道の情報を整理し、発信!!

ネットワーク部会では、昨年より「春のネットワーク会議」「夏のネットワーク会議」「冬のネットワーク会議」と、話し合いの機会を3回に増やし、人



と人との結びつきをつくと同時に、情報発信の方法を考えてきました。そこで、最も注目したいことは、ホームページのコンテンツの充実です。各支部で実践してきたことや、毎年行っている大会の様、教

育美術展の奨励賞作品の紹介など、発信できることを整理し、ホームページに掲載しています。現在は下記に示したINDEXページのように10のコンテンツでホームページを運営しています。



○ネットワークの広がり

図工・美術に関する情報を必要としている人は、たくさんいると思います。日常の実践の中に生かすことの出来るちょっとした情報から、授業作りに関する指導案の共有など、ホームページの活用の仕方はいろいろと広がっているように思います。そのひとつとして、この広報の中にも、詳しくはホームページでと、書かれているところがいくつかあるように、広報とホームページの連携も、ネットワークの可能性のひとつと考えています。情報の共有を目的としたネットワークですが、何ととっても、その根本は「ひと」と「ひと」の結びつきなのですよ……。

ホームページ活用術

まずは、<http://hokuzou.kir.jp/> にアクセスしてみてください。
北海道造形連盟で発信している、情報をご覧いただくことが出来ます。
ここでは、この中から3つを紹介します。

ホーム
北海道造形教育連盟について
* 18支部紹介
研究大会
北海道教育美術展
広報紹介
授業に使える情報BOX
ほくそうコム
リンク
お問い合わせ

北海道造形教育連盟
HOKKAIDO
北海道造形教育連盟の各支部を紹介いたします。各支部のリンクを移動させてください。
旭川市教育研究所 協働実践部にてリンクします。

<18支部紹介>

現在、5つの支部でホームページを運営しています。また、いくつかの支部では、広報の掲載など、情報発信をこのページを使って行いたいと考えています。

このページでは、それぞれの支部にリンクしているほか、各支部での大きな事業、授業公開などを紹介します。全道の動きがわかるようなページになるようにしたいと考えています。

北海道造形教育連盟
No.123
<表紙> 札幌大会風景
大会委員長あいさつ
大会を振り返って (大会研究部長)
札幌大会に寄せて
次期大会 (伊達大会) 予告
No.122
<表紙> 第52回教育美術展 奨励賞作品
委員長挨拶
研究の方向 ネットワークの活動について
地区サークルNOW
札幌大会のご案内
No.121

<広報紹介>

連盟報をPDFデータで紹介しています。広報誌の届かない連盟の会員以外にも、是非、読んでいただきたいと思い掲載しています。

また、今回の連盟報から詳しくはHPへと、いう記述があったように、広報に書ききれない内容や写真、グラフなどを、ホームページで紹介します。

北海道造形教育連盟
大会紀要
実践集
作品集
実践集
実践集
資料紹介
作品集

<授業に使える 情報BOX>

各支部で編集した実践集や作品集、全道大会の紀要などを紹介しています。下記のように、それぞれの冊子をクリックすると、代表的な写真や巻頭言などを見ることが出来ます。また、問い合わせ先も紹介されていますので、冊子が必要になった方は、直接お問い合わせいただけるようになっています。

今後、作品を作る際のポイントや、技法の紹介などの動画も整備していく予定になっています。



第34回 北海道教育美術展

応募要項概要について

正式な要項については後日発送の予定ですが、概要についていち早くお知らせしたいと思います。
今年度も、全道からたくさんの作品をご応募いただきますようお願いいたします。

応募の対象

・ 保育園・幼稚園・小学校・中学校 に在籍する園児及び児童

応募の規定

- ・ 絵画、版画、デザインなどの作品とし、学校（園）を窓口として応募する。
- ・ 大きさは4つ切り。4つ切り以下の作品は、4つ切り大の台紙に貼ること。
（中学校については、8つ切り大の台紙も可）
- ・ 1人1点の出品とする。（前年度の作品はご遠慮ください）
- ・ 作品の裏に応募票を貼る。
（応募票は募集要綱に載っているものをコピーして使用する）
- ・ 応募総数を学年別出品一覧表にまとめて添付する。
- ・ 作品は学年ごとに重ねて一つにまとめ、表に「教育美術展作品」と記載する。



☆絵画・デザインなどで様々な材料を用いた表現が見られますが、展示・保管上、次の規定をお守りください。

- * 積み重ねてもつぶれない、かさばらない
- * 接着が強固ではがれたりとれたりしない
- * 画鋏で展示が可能な重量である

締切・送付先

○平成19年12月17日(月)まで
期日厳守のこと

○〒005-0002

札幌市南区澄川2条5丁目7-2

札幌市立澄川西小学校

北海道教育美術展係 宛

- ◇主催 北海道造形教育連盟
北海道新聞社
- ◇後援 北海道教育委員会
- ◇協賛 さっぽろ東急百貨店

株式会社 サクラバス

問い合わせ先

札幌市立澄川西小学校

福島 由紀子

TEL:011-811-7785 FAX:011-811-0326

◆審査会へのお誘い◆

12月27日(木)・28日(金)の両日、札幌市立澄川西小学校を会場に「教育美術展審査会」が開催されます。例年、札幌市内の先生方はもとより、各地区サークルからも多くの先生方が審査会に参加しております。全道から1万点以上の園児、児童、生徒の絵画・デザイン作品が集まり、作品を見ることを通じて実践について研修し合う、またとない機会です。是非、審査会へも多数ご参加ください。

今年度は北海道教育美術展の会期・会場が変更になります。

会期：平成20年1月16日(水)～20日(日)

会場：札幌資料館ミニギャラリー
札幌市中央区大通西13丁目

あ と が き

こうして連盟報124号を皆様のお手元にお届けすることができ、部員一同ホッとしています。今回も各地区サークルには、組織体制の確立や活動の円滑なスタートのための地区運営にお忙しい時期に、原稿作成や諸調査へのご協力をいただき心より感謝しております。

会員のニーズに応えられるような紙面の充実に向けて、ささやかな歩みではありますが努力しておりますので、どうぞ、皆様からのご意見をお聞かせください。もうすぐ釧路大会。全道のお仲間と大会でお会いできるのを楽しみにしています。

<北海道造形教育連盟広報部> 松本和彦・伊藤聡美